



平塚で味わうブラジル料理「VIVA'S」



今回は、横内にあるブラジル料理店のVIVA'S (ビーバース) を御紹介します。お店のオーナーは、日系ブラジル人の比嘉ジョゼさん・サンドラさん御夫妻です。市内東中原で6年間営業された後、約1年前に現在の店舗に移転しました。湘南ベルマーレのサッカー選手も時々訪れ、VIVA'Sのブラジル料理を楽しんでいます。

VIVA'Sでは、ブラジル料理の定番「シュハスコ」と呼ばれる炭火焼をいただくことができます。通常、牛肉を中心と

した8~10種くらいの炭火焼が出されます。また、豆の煮込み料理フェジョンがつきますが、これはブラジル人にとってはソウルフードと呼べるもので、白いご飯にかけて毎食のように食べるそうです。

お腹いっぱいになるまで美味しく食べたら、歌って踊って消化すればよいそうです。食べることも思い切り楽しむ、陽気なブラジルの雰囲気と一緒に味わえるお店です。お腹を空かせて、大勢の仲間と一緒にどうぞ。

炭火焼は次の8種をいただきました。

- ①リングイッサ (豚肉のソーセージ) ②フランゴ (鳥の手羽先) ③ハツ (鳥)
- ④ランプ (牛) ⑤スペアリブ (牛) ⑥イチボ (牛) ⑦玉ねぎ ⑧パイナップル

大きな肉は、程よく焼けたところを外側から削ぎ落とすようにそれぞれの皿に切り分けてくれます。まだ焼けていない赤い部分が出てくるとまた炭火で焼き、焼けたらまた切り分けにきてくれます。ひととおり食べて一休みしている暇はなく、2巡目、3巡目とまた焼き立てのお肉が次々とやってきます。

最後のパイナップルは意外に思うかもしれませんが、焼くと甘酸っぱさが増してとてもおいしくなります。肉の消化を助ける酵素が豊富なので一緒に食べることは理にかなっているのです。



オーナーの
比嘉ジョゼさん・サンドラさん御夫妻



スペアリブ



炭火焼パイナップルはほのかな
シナモン風味



VIVASの一番のおすすめ イチボ(ピッカーニャ)

前回に続き、囲碁の楽しみ方をお話します。今回は囲碁の打ち始めについてです。

さて、皆さんは「囲碁をやってみませんか?」と言われた時どのように思いますか? 私が友人を誘ってみた時に最も多い返答は「難しそう」というものです。

確かに囲碁を知らない人が端から碁の対局を見ていても何をやっているのかが全く分からないと思います。でも、ルール自体はそんなに難しいことはないのです。黒番と白番で交互に石を打って、相手より大きい陣地を取った方が勝ち、実はそれだけなのです。

駒の動かし方を覚えなければならない将棋やチェスよりもはるかに簡単なルールです。ルールは簡単ですが、石の意味が分からないので難しく見えるのだと思います。

石の置き方はルール上19×19の線の交点ならどこに置いてもよいのです。しかし、「どこに置いてもよい」と言われる

と、逆にどこに置いたらよいかわからないと思いませんか? そこで、当初の「陣地を多く取る」という目的を思い出してください。そのための効率のいい石の置き方がいわゆる「布石」とか「定石」とか言われるものなのです。

しかし、これらは覚えていなくては碁が打てないというものではありません。中国の格言に「先に開展を求め、後に緊湊に至る」というものがあります。これは最初のうちは広く大きく、後に小さく細かく、と言うような意味で、そのまま囲碁にも当てはまります。最初のうちは石を余り接近させない様に広々と打つのがコツです。次回はいよいよ戦い方を御説明します。

(財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団

勝山 俊樹

碁の打ち方

序盤

※囲碁入門教室に興味のある方は
(財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団へお問い合わせください。
(電話 0463-32-2237)

碁関連トピックス

木谷實九段が囲碁殿堂入り

平塚で多くの優秀なプロ棋士を育てた故・木谷實九段が、日本棋院の第7回囲碁殿堂表彰において殿堂入り棋士に選ばれました。

木谷實九段は、昭和14年から昭和50年まで、平塚市横浜町の自宅を道場として、全国から囲碁の才能のある子ども達を内弟子として迎え入れ指導・育成にあたり、優秀な棋士

を多数送り出しました。「新布石」と呼ばれる革新的な序盤理論の発表、また、川端康成の著作『名人』の原作となった本因坊秀哉名人引退碁をはじめとする数々の名勝負を残すなど、日本の棋界における大きな業績が讃えられ、今回の受賞が決まりました。

2011年1月5日、日本棋院の打ち初め式において、表彰状授与と記念のレリーフの披露が行われました。レリーフは今後、日本棋院会館地下1階の「囲碁殿堂資料館」に展示されます。



殿堂入りの記念レリーフ

※囲碁殿堂(いごでんどう)は、2004年、日本棋院の創立80周年記念事業の一環として、囲碁の普及と発展に貢献した人物を顕彰するために設立されました。これまでの受賞者は徳川家康をはじめとする12名です。